

第6号様式

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (看護学)	氏名	福岡 泰子
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
脳梗塞の再発予防を目的とした疾病管理プログラムの 開発及びその有効性に関する研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	宮下 美香	印
審査委員	教授	片岡 健	印
審査委員	教授	小林 敏生	印
審査委員	教授	濱田 泰伸	印
審査委員	教授	森山 美知子	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>脳梗塞の1年以内の再発率は約10%といわれており、軽症であっても、その後の生活習慣の是正を行わなかった場合、再発のリスクが高まる可能性が示唆されている。脳梗塞の再発を予防するためには、疾病管理として危険因子のコントロールとかかりつけ医との連携が必要である。患者は危険因子をコントロールするセルフマネジメント能力を身に付けることが求められるが、患者に対する有効な教育支援法は確立されていない。また、脳梗塞の疾病管理における急性期病院から地域への継続は十分とはいえず、セルフマネジメントを強化するプログラムの開発、効果検証の報告はみられない。患者のセルフマネジメント能力を高める教育支援を提供することにより、生活習慣行動の変容、自己効力感の向上、臨床指標の改善、精神的健康の向上がもたらされ、脳梗塞の再発率が低減することが期待される。そこで本研究では、脳梗塞の再発予防を目的とした患者のセルフマネジメントを支援する疾病管理プログラムを開発し、その有効性を検証した。</p> <p>研究1では、疾病管理の概念に基づき、脳梗塞の再発予防を目的とした疾病管理プログラムを開発した。本プログラムでは、患者がセルフマネジメント能力を身に付けることに主眼を置き、教育の効果が期待できる対象集団を特定し、プログラムの内容を構造化した。まず、対象集団を modified Rankin Scale (mRS) 0-3 の脳梗塞と一過性脳虚血発作(TIA)の患者と設定した。次に、プログラムの内容については、脳梗塞の危険因子と治療、スト</p>			

レスマネジメント、セルフモニタリング技術、日常生活の工夫を中心とした教育により構成し、行動変容の理論や技術を取り入れ、効果的な教育教材や自己管理手帳を補助教材として用い、面接・電話の頻度や教育期間を検討し、プログラムを作成した。プログラムの展開では、医療施設の外に疾病管理センターを設置し、疾病管理を行う看護師が急性期や回復期リハビリテーション病院と協働して対象者のリクルートを行い、その後は地域のかかりつけ医と連携しながら対象者へプログラムを提供する流れを構築した。

研究 2 では、研究 1 で構築した脳梗塞患者における疾病管理プログラムの有効性について、無作為化比較対照試験を行い検証した。研究参加の同意を得た 10 病院から自宅に退院した、脳梗塞(mRS 0-3)もしくは TIA を発症し入院加療した患者で、退院から後 1 年以内の外来通院中の患者のうち、研究参加に同意を得た 321 人を病型別に層化無作為割付した。介入群 156 人には、従来通りの受診に加えて、研究 1 で開発した 6 ヶ月間の疾病管理プログラムを提供した。対照群 165 人には、不利益のないよう、従来通りの受診に加えて 1 回のみ面接による保健指導を行った。プログラムの有効性を検証するため、登録時とプログラム終了時である 6 ヶ月目に臨床指標、人的指標及びセルフマネジメントの実施度合を共分散分析および Mann-Whitney U test で比較した。

主要評価項目である 6 ヶ月間の再発者数は対照群 6 人に対して介入群 2 人であり、介入群の方が対照群より再発率が低い傾向が示された(Log-rank test; $p=0.099$)。各指標の比較においては、介入群のすべての指標が改善し、本研究の代理指標である Framingham Risk Score: General Cardiovascular disease (10-year risk)($p=0.030$)、副次的評価項目である体重($p=0.003$)、BMI($p=0.002$)、収縮期血圧($p=0.001$)と拡張期血圧($p=0.003$)が有意に改善した。行動変容の指標であるセルフマネジメントの実施度合(血圧測定、食事、運動)($p<0.001$)、人的指標である自己効力感($p<0.001$)、うつ($p<0.001$)、QOL(社会生活機能以外)($p<0.01$)においても、有意な改善がみられた。

特定した対象集団に対する長期間の教育支援の提供とかかりつけ医との連携強化が、患者の行動変容を伴うセルフマネジメント行動の習得及び実施と、医師からの適切な医療の提供をもたらした。患者の身体、心理社会的健康が改善されたと考えられ、本プログラムの有効性が示唆された。

以上の結果より、本論文は脳梗塞の再発予防を目的とした疾病管理プログラムの有効性を示唆し、患者の再発危険因子の低減および QOL 向上に寄与するプログラムを提案するものであり、脳卒中医療の発展に大きく貢献する研究として高く評価される。よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。